

議員定数及び議員報酬調査特別委員会 摘 録

1. 開 催 日 令和5年6月30日（金） 第2委員会室
2. 出席委員 政野太委員長 桂藤和夫副委員長 堀井秀昭 福山権二 藤木百合子 國利知史
松本みのり 林高正議長
3. 欠席委員 なし
4. 事務局職員 山根啓荘議会事務局長 横山和昭議会事務局議事調査係長 橋本和憲議会事務局主任主事
5. 説明員 なし
6. 委員外議員 坂本義明副議長
7. 傍 聴 者 1名
8. 会議に付した事件
 - 1 付託事項の審査
 - ・市民アンケートの結果に対する考え
 - ・現時点での議員定数に対する考え
 - 2 今後の審査について
 - 3 その他

午後0時57分 開 議

○政野太委員長 ただいまより、議員定数及び報酬調査特別委員会を開会したいと思います。出席委員は7名、傍聴、録音、録画を許可しています。それでは、直ちに協議に入りたいと思います。

1 付託事項の審査

- ・市民アンケートの結果に対する考え
- ・現時点での議員定数に対する考え

○政野太委員長 まずは、前回の会議において皆様方をお願いしていました、市民アンケートの結果について、現時点での委員皆様方の考えをお聞かせください。これは、全員にお話しをしてもらうので、順番にいけばいいのではないかと思います。どちらからいきましょう。福山委員。

○福山権二委員 アンケート調査の結果を見て、これまで議会の中で考えていること、市民の皆さんは大体こう考えられているのかなということとあまり大差がない。とりわけ、今の市議会に対して、大きな変化を希望するとか、行動を期待するということはなかった。もっと人の意見を聞けとかありますが、今回のアンケートは、議会のこれからの行動、判断について大きな影響があるとは感じなかった。議会の中で持っている課題を、淡々と話をして決めればそれでいいのではないかと。何もしていない、というのがありますが、庄原市議会も、さまざまに議会改革を進めてきたし、市民のところへ十分に話をしていった。そういう意味では、議会としての活動に対して市民が積極的に評価をすることだけが特徴的にあるのではない。例えば、その地域の自治振興区の問題とか、市の地域での組織活動みたいなものが豊富になることによって意見もたくさん出るのですが、現状では、特にこれは考えな

といけないということはないのではないかと。何もしない人は議員をやめたほうがいいのか、もう少し市政をチェックしろというのはあるが、あまりびっくりしたなということはない。ただ、もう少し市民の声を聞いてくれというのはある。報酬についても、定数についても、何々を根拠に多すぎるというのはあまりないので、特にこれとはあまり感じなかった。

○政野太委員長 定数について、例えば、具体的な数字は別として、定数減、定数増、定数維持というところについては、今の発言からすると、このアンケートを見て、現時点で特にそれによって考えることはないということでしょうか。

○福山権二委員 例えば、10人にしたらどうかという話もあったりする。それは数の問題で、10人にしたらどうかという根拠を出せるようなアンケートではなかったかもしれない。今、我々がここで、15人がいい、何人がというのはなかなか難しい。14人にしたらどうか、10人したらどうかという意見があっても、その根拠があまり示されていないので、普通の会話以上のものはないのではないかと感じました。

○政野太委員長 よろしいですか。國利委員、お願いします。

○國利知史委員 アンケートを読んで、市民の方々がいろいろな思いを持たれているなという感想を持ちました。それで、予想していたとおりのことが御意見として多かったのかなど。市民にとっては、議員が何をしているかわからないとか、全体的にマイナスのイメージが少し多かったかなどは思いますが、逆に期待する声もあった。だから、知っている人は知っているし、知らないことは全く知らなくて、イメージだけの感覚で言われている方もおられるかもしれない。このアンケートを見て思ったのは、議員がどういう活動をして、どういう動きをして、議会ではこういうことをしていると広報でもっと周知することができれば、議員活動の理解を深めることにもつながるのかなど。傍聴もユーチューブも見ることがないという方が結構多かったので、そういう人たちが、議員が働いて、どういう動きをしているかというところはわからないと思う。いい意見の人は、多分、議員に近い人とか、議員とつき合いがある方で、話を聞いて知っているというところもあるのかなどと思った。このアンケートを見ての考えとしては、論点はずれませんが、もう少し、広報というか、市民の方に議員の働きをどのように知ってもらおうかというところだと思いました。会派で話をした中では、2減、4減という意見も出ましたが、現時点では現状維持という方向でいいのではないかと話になりました。

○政野太委員長 堀井委員、お願いします。

○堀井秀昭委員 アンケートに対しては、大体、予想をしたような意見がたくさん出ているなという思いです。さまざまな意見が出ていますけれども、定数の問題で言えば、1ついい意見が出ている。要は、庄原市のその場その場での考え方を決めていくのではなく、定数を定めるための根拠を定めたらどうかという意見が出ている。それは1つできることかなという思いはあります。それから、選挙を小選挙区制で行えという意見が1つあった。いまさらという思いが強いとは思いのだけれども、議員が選出できない地域ができつつあることを考えれば、小選挙区制というの、1つの議論する課題かなという気がしました。報酬については、アルバイトでするぐらいならやめなさいというような意見が強い。議員が得ている年収を所得している市民が、大体、3分の1いないだろうという意見があるのもこたえます。実際に、市民の方々の年収というのがそのような状況にあるのではないかと気もしていますから、報酬をアップして若者が立候補できるようにすることが果たして可能かどうかという思いはあります。実際に、定数について1つの基準を定めるとすれば、他の類似自治体の状

況もきちんと精査して、例えば、市民の人口 1,500 人当たり 1 人とか、2,000 人当たり 1 人とか、1,000 人当たり 1 人とか、基準をきちんと定めていくことも 1 つの方向かなと思います。

○政野太委員長 藤木委員。

○藤木百合子委員 いろいろな御意見が出ていましたが、議員活動が見えないという御意見に胸が痛いかなと思います。現状でも議員活動が見えないのに、定数を減らしたら、もっと見えなくなるのかなという気もしました。先ほど意見が出たように、議員活動をいかに知ってもらおうかという、広報活動とか、そういった努力はしていかなければいけないなという意見です。数の問題は別だと言われれば、そういうのもあるかもしれないけれども、これだけ広い地域になると、ある一定数議員がいないと、市民と議員の間がもっと広がるのではないかなという感じがしました。議員活動を、広報等、どういったふうに市民に伝えていくかというところで、庄原市の議員が一緒になって、議員がこういった方向で意見を調整して、市民の声を聞き入れながらこんなことをしていますよというのを、議員全員で示せるような活動も具体的にできたらいいかなと思いました。

○政野太委員長 定数については、定数を減らすと、市民の方にもっと議員活動が見えなくなるということであれば、増か維持ですね。現状維持で。松本委員。

○松本みのり委員 アンケートをもとに、無所属議員 7 名でも話し合いをしました。その中で、アンケートで減らすべきという声が多いので、市民の声に応えなければならないのではないか、という考えの方もおられましたが、大抵の議員は、減らさないほうがよいという意見にまとまりました。その理由としては、どうしても、多様な意見を聞くための人数が最低限必要ではないかということ、合併前に 96 名いた議員を 33 名、25 名と減らしていったら、25 名から 20 名に減らすときにも、かんかんがくがくの議論をして、これ以上減らせないというところまで減らした結果が 20 名であったということがありました。議員活動が見えにくい、何をしているからわからないから減らしたほうがいいのかという御意見もありましたが、私も、現時点で議員活動が見えない中で、人数を減らすとさらに見えなくなってしまうことを懸念しています。なので、定数を考えることを通して、議員活動をどう知ってもらうかという、議会の活発化に向かうことが大切かなと思っています。

○政野太委員長 桂藤委員。

○桂藤和夫副委員長 今、松本委員が言われた、無所属の会派の議論になります。個人的には、前回、2 年前の選挙結果を見ても、最下位当選と次点の方の票の格差はほとんどなかった。これが、最下位当選と次点の方で明らかに開いていれば別かもしれませんが、現状、まだ空白の地区もありますので、定数については現状維持でいいのではないかなと思います。アンケートにつきましても、大方の皆さんが、大体、想定内の意見が多かったかなと。いろいろ批判的な、厳しい意見とかもありましたが、それも踏まえても、議会への関心がないという部分とか、議員活動への理解度が薄いという部分がある。この辺を、これから広報広聴等々を通じて、市民としっかりと話し合っていくべきではないのかなと思います。定数については、現状維持でいいのではないかなと考えています。

○政野太委員長 私からも、アンケートに関して意見を言わせてもらいます。自由記述欄というところに大変多く書いてもらっていたので、大変ありがたかったのですが、その中で、大変厳しい意見も確かにありました。その厳しい意見のほとんどが、もっとしっかり頑張れと。議員活動が見えないから頑張れと。あるいは、市民からの施策に対する要望というのが非常に多かったように見受けられました。私は、このアンケートから、より多くの市民の方の意見を反映させるためにも、ある程度の議

員数は必要であると感じました。さらに、先ほどからもありますが、常任委員会という市の施策に対してより深く議論していく場所、恐らく、前回の調査委員会でもここは議題になったと思います。会議の議論が深まる理論というのが6人から7人ということがあることから、このアンケートからすると、市民の方も決して議員の定数を減らせというのではなくて、しっかり意見を反映させてくれというふうに取り取りました。したがって、現状、このアンケートからすると、私も、議員は定数維持という考え方で思っているところです。ただ、これから先、また議論を深めていかなければいけません。維持をするのであれば、もう少し維持をする根拠が必要になってくる。先ほど堀井委員も言われましたが、ある程度その根拠に基づいて、今回、その定数維持にするのか、減にするのかというところを定めていかないといけないのかなと感じています。ただ、委員の皆さんの意見を聞かせてもらいますと、無所属の会派、あるいは、きずなさんで多少減の意見もありましたが、おおむね今回の市民アンケートのことについて、この委員会では、現状では定数維持がよいという意見でまとめさせてもらってよろしいでしょうか。まだほかに意見があれば、それぞれの意見の中で思いがあればお話しください。福山委員。

○福山権二委員　　今の委員長の進め方では、要するに、アンケート結果で言うと現状のままでいいと思えると。ここの中で減らそうという意見があるかないかは別ですね。ここの中の意見もみんな同じだということですか。

○政野太委員長　　ここの中でも一通り聞かせてもらいましたが、委員の中では、定数減が好ましいという意見はなかったように思います。堀井委員。

○堀井秀昭委員　　私は、現状維持が好ましいか、定数減が好ましいか、ふやすのが好ましいかという結論をまだ持っていない。

○政野太委員長　　わかりました。

○堀井秀昭委員　　何年か経過する度に議員数や報酬等の議論をするのもいいが、ある程度の基準をつくり上げるいいチャンスではないかという気持ちをまだ持っている。現状の定数を確保するのなら、どういう基準に基づいてこの数字が適当、この人数が適当というものを、協議した上でつくり上げてほしい。

○政野太委員長　　あくまで市民アンケートの結果を見た皆さんの考えを聞かせてもらっています。堀井委員が言われたことはまさに重要なことで、最後に皆さんに御案内しようと思っていました。次回からの論点、この市民アンケートを見ての答えが、きょうもらった御意見だと思っています。その後、今度は視点です。今までいろいろと資料を提供させてもらっていますが、例えば、類似自治体であるとか、面積であるとか、人口であるとか、こういったところを1つずつ精査していきたいと思っています。最終的に、議員が定数維持になるのか、減数にするのかというところを議論し合うことの繰り返しになるかと思っています。よろしいですか。福山委員。

○福山権二委員　　堀井委員が言われた、基準を考えようというのは、庄原市のさまざまな特性があって、その中で幾らがいいかについての基準を考えるというのは、このアンケート結果はもちろん参考にしてもいいが、全国的な、同じ自治体の比較とかを出しても、類似自治体はあくまで参考であって、同じようなところが同じような数になっても、その根拠は違うのだろうと思う。同じような人口であっても、同じような面積であっても、その地域の特性もあって、だから幾らがいいと決めていると思う。今、堀井委員が言われた、庄原市の独自の決め方をまず議論したほうが、例えば、25から

20にするときに議論になったのは、一番少なかったのは総額が1,300 幾らだったので、1,300 人で1 人出せるものをつくろうとしたら、その当時の人口で25 人だった。だから、当時、25 人でいいのではないかと、維持しようと思ったのだけれども20 になった、ということを記憶している。そのときに、減らす分だけは、議員報酬をアップしてもいいのではないかという意見もあった。そういう意味で、基準の決め方というのは、もちろん類似自治体を見てもいいのだけれども、うちの独自の考えを持つことのほうが大事。比較というのは、資料を提供してみんなが見るだけ。独自の判断をしないといけないと思う。小選挙区制に対しては、あまり賛成ではない。

- 政野太委員長 今の福山委員と堀井委員の御意見は、基準を定めようということによろしいですか。
- 福山権二委員 定めるかどうかは別として、基準についても議論しよう。
- 政野太委員長 それはもちろん今から進めていくので、その具体的なことについて、今からまた皆さんに御意見をもらいたい。議長、副議長、アンケートについて何か御意見があれば、お聞かせもらえますか。
- 林高正議長 ほとんどの人が議会に興味がないのだと端的に感じました。自由記述欄にはいろいろなことが書いてあるけれども、この円グラフの感じから見ると、傍聴も映像も見たことがないとか、いろいろな意見があって、正直なところ、半数以上の人は興味がないのだなというのを受けました。
- 政野太委員長 坂本副議長。
- 坂本義明副議長 同じような考えで、アンケートの出し方によってそういう導き方もあるのかもしれないが、そういう答えになってきたのだなという感じで見ました。ずっと読んでいたら、頭にきたから途中でやめたということもあった。逆に言えば、議会、議員の見える化を進めていかないとこういうことが出てくると思うし、興味のない人は何をしても見てないと思う。興味のある人に見てもらえるような議会、議員の見える化、活動報告をいろいろな場面で、文書でも、いろいろな面で議会を市民にPRする。議員はこういうことをしていますよというのをいろいろなところで。している方もおられるかもしれないが、していない方もおられる。そのあたりを何とか引き上げていく。今後、話になると思うのだが、広聴委員会みたいなものをするとか、何か考えてしないと。告知放送で、一般質問の内容とか誰々がしますというのをしているし、それは参考になる。そういう方法も踏まえて、議会をPRするいろいろな機会をつくり上げないと、同じことを聞いて、同じようなことになると思う。こんな議員ならお金を払わなくていい、いるときだけ出てきて日当1万円でもいいではないかという話が前にあったが、そういう扱い方をされる。大変不本意なことだと思う。そこらも考えを少しずつ変えていかないと、いつまでもそれをされたのでは、している者も精がないという思いです。
- 政野太委員長 堀井委員。
- 堀井秀昭委員 私は、どうするのがいいという考えを定めているわけではない。前議長の議長諮問によって、この定数の問題と報酬の問題を調査、研究、決定していくためにこの特別委員会を設置した。例えば、定数は何人が適当という結論を出すに当たって、アンケートによれば現状でいいではないかという意見が多いからそうしました。そんな情けないことはできないだろうと言っているだけです。
- 政野太委員長 アンケートにしても、他自治体の事例にしても、これはあくまで参考でしかありません。ここについては、多分、皆さん同じ思いだと思っていますが、それで大丈夫ですか。
- 福山権二委員 アンケートを取って、非常に重要視して、その中で市民が議会をどう思っているかわかったのだから、そこを土台にして考えるのは大事なことなので、それは無視できない。市民に聞い

てみたら、一樣に、そんなに大して関心がないとか、ひどく参考になるようなものはあまりなかったと考えるかどうかというのは、みんなで決めればいい。

○政野太委員長　それぞれ意見をもらいましたけれども、このアンケートをしっかりと読んでみて感じられた方もおられるし、もちろん、福山委員のようにあまり参考になる意見はなかったという方もおられる。それはそれでいいのではないかと思います。だから、1つの参考として、今回このアンケートについて意見を求めたところです。福山委員。

○福山権二委員　参考になる意見があまりなかったというのは言い方が悪かったが、要するに、あえて報酬とか定数を考えるという動機になるようなことは少なかったと言った。それよりも、堀井委員が言った、基準はどう思っているのかをこちらで考えることが大事だと思いました。もう1つ、このアンケートに、あなたは市会議員選挙に投票していますか、というのを加えたらよかったというのが1つあって、投票も行っていない人が言うのはどうかと思ったりする。今考えてもそうですが、少し残念だった。何でそう思うかと言えば、例えば、選挙に行き、福山と書く、堀井と書くではないですか。どうしているのか、これはどうなっているのかと聞いたりもせずに議員は何をしているのかと言う前に、何かあったら自分が書いた議員のところに行き、自分が松本と書いたら、松本議員からもっとたくさん情報を得たり、どうなっているのかと呼べばいい。ほとんどそういうことをせずに、つまらないとか、いいとか書いても、どうなのかなという気がする。そういう意味で、市民が議会にどうかかわるか。関心ないですよと書くのは、何でそうなるのかなと思う。

○政野太委員長　年代別で分けましたが、今回は1,400人の方を無作為に抽出して、その回答が返ってきたものについての議論です。確かに、福山委員が言われるような、そういう意見も中にはあったかもしれませんが、このアンケートは、36%が返ってきて、この数字に信憑性があるということで進めています。一つ一つの意見はいろいろあったかと思いますが、よろしいでしょうか。國利委員。

○國利知史委員　このアンケート、興味がない人は根本的には出していないと思う。だから、いい、悪いと書いている人も、適当に書いているわけではなくて、多分、自分の意見がある人が書いて出している。だから、このアンケートは、すごく重要な意見が集約されているのではないかなと個人的には思う。そもそも、興味ない人は出さない。このアンケートは結構大切なのではないかなと思います。

○政野太委員長　非常に参考にはなる、1つの指数だと思っています。アンケートについての意見を聞かせてもらうのはこのぐらいでよろしいですか。國利委員。

○國利知史委員　例えば、今、アンケートの集計を見て、ここで議論しているではないですか。市民の方には、このアンケートをもとにこういう議論がありましたというのは何か周知されるのですか。

○政野太委員長　最終的な報告、中間報告になるかもしれません。その中で、アンケートも参考にしたということについて、少し中身を具体的に、こういうところを参考にしたというのは、これからの議論の中で出てくると思います。皆さんにまた後で案内しようと思いますが、次は絞り込んでいくようになります。例えば、財政面を果たしてどのように定数に反映するべきなのかとか。なぜかという、アンケートの調査項目の、定数は何で決めるべきかという答えの中に、市の財政であるとか、面積であるとか、人口であるといったことがあるので、それを1つずつ根拠として進めていかないといけないかなと思っています。その答えが、市民の方に返すお答えだと思っています。あとは、この映像がユーチューブに流れますので、それも1つになるかと思っています。

2 今後の審査について

- 政野太委員長 2番目の今後の審査についてです。先ほど堀井委員からもいろいろありますとおり、まさに、ここからが真髄です。この委員会は、まず定数を、ある程度一定的な方向性を決めようということを進めています。その定数についての視点で、皆様方の御意見をください。先ほど福山委員からありました、そういう視点を入れるべきだということで、ここでもう1回、議論を進めてみたいと思います。どの視点を入れるかをきょう決めてもらって、次回からそれを1つずつ検証していきたいと思っています。何かありませんでしょうか。皮切りに1つ言わせてもらおうと、市民アンケートをとらせてもらった中に、定数は何を基準に決めるべきですかという問いがありました。問10で一番多かった回答が人口、2番目に多かったのが財政状況、3番目にわからないというのが多かった。おおむね、人口、面積、財政、それから他市との比較というところが、市民の方にお答えしてもらっている内容です。でも、他市との比較というのは、この答えをもらった方の中ではあまり多くない状況です。これについては、何個かは1つずつ検証して議論を深めていきたいと思っています。いかがでしょう。これはもう、自由にお答えしてもらえればと思います。林議長。
- 林高正議長 定数を20にしたとき、いろいろな議論がありましたが、自治振興区との関連という議論もあったように記憶しています。これは私事ですが、私は敷信自治振興区です。敷信自治振興区内でのいろいろな要望とかが私のところに上がってくることはまずない。全て自治振興区で片がついているという状況があります。ですから、定数減のときに何を一番メインに考えたかといえば、庄原市議会は3常任委員会制度をとっているから、その常任委員会のメンバーの数から、かなり議論をしていたと記憶しています。きょう、委員長が7プラスマイナス1という話をされましたが、その議論で20に落ちついたという経緯があります。ですから、私たちも当時は人口とか面積とか他市との比較とかを全部調べましたけれども、最終的に落ちついたのは常任委員会制度で、その人数で20を導き出したと感じています。
- 政野太委員長 1つの視点として、常任委員会の構成という視点で検証していくという御意見をもらいました。皆さんの合意が得られれば、もちろんそれをピックアップしていきたいと思います。その他。堀井委員。
- 堀井秀昭委員 前回の定数を考えたときには、恐らくまだ制度としてなかったのではないかなと思うが、現在は、1つの議会で1人の議員が複数の常任委員会に所属してもいい。複数所属して、委員会がかぶらないような議会運営を基本にすれば、委員会の人数が6人あるいは7人が適当という数字は、現在としては、ある程度の根拠にはならないのではないかと単純に思います。皆さんの意見は。
- 政野太委員長 できれば、それを議論するときに意見をもらえればと思います。要するに、視点として入れるべきか、入れないべきか。堀井委員。
- 堀井秀昭委員 当然、委員会の審査に有効な人数が何人ぐらいかというのも、1つの視点に入れなければいけない。それと、人口。面積はもうやむを得ないとして、財政状況。庄原市の財政上、議会の予算がどのぐらいの割合を占めていくのが適当かという議論を1つしないといけないかなと思います。ですから、3つですね。
- 政野太委員長 國利委員。
- 國利知史委員 今、堀井委員が言われた、財政状況で、議会にかかわる経費が全体の何%かということ

ころを、他市と比べるというのはどうなのですか。

○政野太委員長　　もちろん、それもです。ほかにはありませんでしょうか。

○坂本義明副議長　　現在の人口を言っているのかもしれないが、人口はまだどんどん減るのではないかと、ふやす努力はされているのだろうが、減ったら減っただけ議員を減らすようになる。その議論はどうするのか。今を境に、例えば10年で、これでやりましょうという基をつくるのか。それを言うと、減っていったら減らさないといけないだろうと市民は言う。ふえることはない。ふえたら議員をふやすのかと、また逆の議論になる。

○政野太委員長　　今、直感で思うところで言うと、それも、人口を議論するときはその答えを検証していけばいいのかなとは思いますが。いかがでしょうか。ある程度、独自の基準づくりになると思う。その中で、人口の検証をするときに、将来、本当に人口が2万人になったときに、というような話で、皆さんから意見がもらえるのではないかと思います。よろしいですか。

○坂本義明副議長　　逆に言えば、人口が減っても、議員の数をそのままそろえていたら、人が少ない分だけ動けるわけだから、市民に対して、より優しい政治ができる。極端に言えば、そういう議論もまた、逆にあるのではないかと。

○政野太委員長　　恐らくもう、人口は欠かせないところなので、そのときにまた活発な意見を交わしてもらえればと思います。ほかには何か視点としてありませんでしょうか。福山委員。

○福山権二委員　　財政状況を考えて報酬とか定数を考えるのは全くナンセンスだと思う。財政状況は、大体どこでも、議会の財政で1.25%ぐらい。財政規模から見て、議会が多いというのはあまりない。大体それぐらいで落ちついているし、財政規模が少なくなったから議会の定数を減らそうというのは、あまりよくないというか、現実的でないのではと思う。定数の問題でいうと、議長が言ったように、議会の委員会をどう活性化させるかが大きなポイントになると思う。堀井委員が言ったように、1人が2つ兼ねることも、北海道などは特にそうだが、町村では、人数が少ない議会で5人か6人というところならあるだろう。少なくとも、庄原市として、これまでの議会で言うと、委員会はどうしても3つは要る。議会の委員会を活性化するほうが議会としては大事ではないかと思うので、兼任しないほうがいいのではないかと。竹原市は兼任をしているけれども、忙しくて能力がついていけないこともあるのではないかと。庄原市議会は、3つに分けて、それぞれでしたほうが、そこを基準に考えることがいいのではないかと思います。

○政野太委員長　　今の福山委員の御意見でいうと、常任委員会の構成については、定数を決めるに当たって、その議論を深めて加えるべきだということでもよろしいですね。財政のことについては、財政を検証する上で、その意見をもらえればと思いましたがけれども、よろしいですか。ほかには何か視点的に。松本委員。

○松本みのり委員　　先ほどから人口の話も出てくるのですけれども、同じ人口であっても、10分の1の面積で同じ人口のところとは様子が違うので、人口密度の面も視点として取り入れるべきかと思っています。

○政野太委員長　　先ほどもありましたが、恐らく、将来の推計であるとか、密度というところも人口に含まれるのではないかと思います。何かありませんか。視点として。こういう視点で定数のことを考えてみてはどうかという。福山委員。

○福山権二委員　　消極的な意見ですが、今言っていたように、庄原市は広いので、人口は散在している。

例えば今回、比和、総領から出ていない。庄原だと、高が出ていない、本町が少ないとかがある。総領で聞いた話だけれども、どうせ総領から出ても、これだけの人数しかいないのだから当選はできないみたいな、立候補しようという意識が少なくなる。それは、そこの勝手だが、そういう意味で、例えば、1,300人しかいなくても、小選挙区ではないけれども、頑張ってみようという気になることも必要ではないか。そうしたら、大体25人ぐらいになる。そこまでいかないとしても、議員がいないところは全然反映されない、確かに、庄原の山内において東城のことを考えてと言っても、それはちょっと。学校の統廃合とかのときにはいいけれども、日常的なことはなかなか。議会はそういうものではないというのはあるけれども、その地域にいたほうがいい。

○政野太委員長 先ほど、このアンケートについて堀井委員からもあった小選挙区が望ましいかどうかはわかりませんが、今の福山委員の意見は、恐らく、いわゆる無選出地区、議員がいない地区という視点の御意見だと思います。その視点からも、少し議論を深めていくべきではないかということです。いかがでしょうか。桂藤副委員長。

○桂藤和夫副委員長 小選挙区の考え方も1つかもしれませんが、人口が多い、少ないではなくて、そういう意味でも、地縁、血縁というのがあるわけですから、立候補したい本人が一生懸命努力されれば、人口が1,300人でも当選できるのではないかと思います。人口が少ないから立候補してもだめだという議論ではなくて、立候補される御本人が十分努力されれば、当然当選圏内に入ってくるのではないのかなと思います。

○政野太委員長 個別の議論についてはまたで。これは、もしくるとすれば、多分、面積の中の1つの視点として挙がってくるものかなとは思っています。いかがでしょう。松本委員。

○松本みのり委員 その地域からの議員がいないのでほかの議員が知らないふりをしていますよ、ということは全くないのですが、ただ、その地域に住んでいないとわからない細かい事情もあつたりする。自分も議員になってみて、いない地域にも1人いてくださったら、と思うことは多々あります。その視点も持っていきたいと思います。

○政野太委員長 ほかにありませんか。まだ整理できていないのですが、先ほどアンケートをもとにもらった意見の中で、広報活動というものが非常に課題であるというのは、恐らく、皆さん同じ認識なのではないかと思います。その広報活動をいかに充実させていくかというところについての議論は、定数を決めるに当たっては必要ないですか。非常に難しいですが、どうでしょう。ただ、先ほどからずっと意見を聞かせてもらっていると、そのアンケートをもとに聞かせてもらった中には、どうしても、議員の活動の在り方という視点があつたと思う。今、松本委員が言われたのもそれに近いものではないかと感じていますが、そういう視点は、定数を決める根拠にはなり得ないですか。皆さんの意見を聞かせてもらいたい。林議長。

○林高正議長 広報広聴というのは、議会の見える化をして、関心を高めてもらう。そうすると、また別の段階でアンケートをとったら、また違うものが出てくるかもしれない。要は、市民力を高めてもらわないと、議員力も高まってこないと思っている。ですから、國利委員も言っていましたけれども、広報広聴を拡充して、ぱっと手にとって読んでもらえるような議会だより。私は、そういったもの、パンフレットに近いようなものを目指したいと思っている。そうでなかったら、これを読んだ、知っていると言うけれども、中まできちんと読んで、続けてチェックをしている人というのはほほほいないだろうと思う。だから、広報広聴の重要性というのはそこにあるし、それで広報広聴が充実して

いけば、議員定数もまた違った議論が出てくるかもしれない。先ほど福山委員が竹原市の話をされていたけれども、複数所属はもう十分できるわけです。そうすると、今度は、通年議会という議論に入っていかなければいけないことになってくる。ですから、今は定数と報酬で進めていますけれども、私は、それぞれがリンクしているのではないかという考えを持っている。

○政野太委員長 堀井委員。

○堀井秀昭委員 そういった状況をこれから検討して答えを出していこうということは、大体意見は出尽くしているのです、そこに絞った会議を重ねればいいのではないですか。例えば、委員会の複数所属の弊害、メリット・デメリットを精査しながら、庄原市議会としては、1人1委員会所属を基本にしますと決めれば、1委員会で何人ぐらいがいいだろうと決めていけば、おのずと、議員数はこのぐらいが適当という答えに結びつけられる。これは1つの例で、さまざまな要件を、そういうふうに整理しながら、議員定数は何人が適当だという結論に導く過程を重要視しなさいと言っているわけです。それだけです。

○政野太委員長 それでは、先ほどの私の意見は別として、現在、常任委員会の構成についてという視点、人口の視点、面積の視点、あるいは財政状況の視点、この4点が挙げられています。この4点について、また、皆さんさまざまな意見をお持ちかと思しますので、それを根拠につくり上げていきたいと思えます。いかがでしょう。大丈夫ですか。局長。

○山根啓荘議会事務局長 先ほど面積と言われましたが、前は人口密度と言われました。

○政野太委員長 人口になるのか面積になるのかわかりませんが、人口密度は面積になるのですかね。だから、人口は将来性であったり、推計であったり、そういった視点もいろいろとあると思えます。基本的には、この4点をもって、この定数についての答えを出していきたいと思えます。よろしいでしょうか。では、きょうはここまで決めて、次回、4つ一遍にできるのか、2つずつぐらいにするか。結構多く意見があるような気がする。横山係長。

○横山和昭議会事務局議事調査係長 今度は、各委員の皆様個人の御意見をうかがっていく形になると思えます。先ほど、財政状況の比較という御意見もあったように思えます。例えば、事務局がピックアップした資料ではなく、各委員の皆様がお帰りになられて、全国、他市にはこういう状況の市があって、庄原市と状況は非常に似ているけれども、こういう状況なのでこういう意見がある、という御視点からそれぞれまとめてもらえるのであれば、4つの議論を一度にとというのは、時間的に難しいのかなという思いがしています。

○政野太委員長 皆さんどうでしょうか。4つを一度に進めるよりも、本当は1つずつ進めればいいのかもかもしれませんが、2つずつぐらいを視点に進めみてはいかがかと思えます。常任委員会をしたら、それでもう答えが固まってしまうような気がしますよね。

○堀井秀昭委員 内部事情よりも外部状況を先にしたほうがいいと思う。

○政野太委員長 この4つを見ると、恐らく、離せないのが人口と面積ではないかと思えます。財政と常任委員会の構成というのがセットで、この2点に分けて話をさせてください。よろしいでしょうか。人口と面積について、あるいは常任委員会と財政についてという2つずつの視点から、次回の会議で議論を深めていきたいと思えます。順番としては、どちらが先のほうがいいですか。先に人口と面積でいいですか。では、次回会議において、人口と面積について、皆様方、委員の意見をお聞かせもらいたい。前回も申し上げましたけれども、もう、特にこの場で、会派に持ち帰ってということは言い

ません。会派でお話をされるのは、皆さんのそれぞれの判断で行ってください。人口、面積については、以前から、かなりいろいろな資料を皆様方にお渡しさせてもらっていると思います。それ以上に何かこういう資料があったほうがいいのではないかということがあれば、また個別でもいいのでお話をしてもらえますでしょうか。よろしいでしょうか。

3 その他

- 政野太委員長 次回の会議の日程です。係長から日程をお願いします。
- 横山和昭議会事務局議事調査係長 次回の日程ですが、7月7日金曜日、来週ですけれども、午前10時から議会運営委員会が予定されています。その終了後か、もしくは、午後一番、きょうと同じ時間からの開始はいかがかと思います。皆様、御意見をよろしくお願いします。
- 政野太委員長 議運に関係ない方もおられるので、できれば、午後一番ということで決めさせてもらってよろしいでしょうか。それでは、次回会議を7月7日、13時から開会したいと思います。
- 政野太委員長 その他、何かありませんでしょうか。それでは、本日は、これにて特別調査委員会を閉じたいと思います。

午後1時53分 散 会

庄原市議会委員会条例第 30 条の規定により、ここに署名する。

議員定数及び議員報酬調査特別委員会

委員長